

学習クラブ

実践報告集 2006

やる気がでる . . . 効果があがる . . .

「**与えられる**」学習から「**自ら学ぶ**」学習へ

“ **自ら学ぶ力を身に付ける** ” 学習スタイル



この度、学習クラブをご活用いただいております先生方より、様々な実践報告を頂戴することができました。

先生方のアイデアと良い活用方法を共有していくことで、現在実践していただいている先生方、これから実践される先生方にも参考になればと考えております。

是非ともこれらの貴重な実践報告をご覧頂き、さらなる実践につなげていただけたらと思います。

株式会社 日本コスモトピア
教育事業部 教育改革支援プロジェクト

目次

小学校

- 「心豊かにたくましく生きる児童の育成」
埼玉県熊谷市立星宮小学校 富田 敏彦 先生 3

- 基礎学力の向上を目指したパソコンによる補充学習
埼玉県深谷市立桜ヶ丘小学校 大澤 章一 先生 5

- 「学習クラブ」を活用して
滋賀県立西浅井町立永原小学校 村田 良文 先生 7

- 生き生きと学ぶ子
和歌山県紀美野町立上神野小学校 上 太一 先生 9

- 個のニーズに応じた支援をめざして
岡山県倉敷市立中庄小学校 妹尾 朋広 先生 11

- 「学習クラブ」を活用して
岡山県倉敷市立中庄小学校 青山 薫 先生 13

- 「学習クラブ」の活用を通して
香川県坂出市立府中小学校 増井 泰弘 先生 15

中学校

- 心豊かにたくましく生きる生徒の育成
山形県米沢市立第三中学校 岡村 哲幹 先生 17

- 生きる力をはぐくむ教育課程の創造
埼玉県深谷市立藤沢中学校 19

- 学習クラブ
愛知県小牧市立光ヶ丘中学校 辻 裕太 先生 21

高等学校

- 感動を呼ぶ授業の裏付け
北海道小樽桜陽高等学校 岡部 一良 先生 23

- つまずきの指導
埼玉県立幸手高等学校 金子 英希 先生 25

「心豊かにたくましく生きる児童の育成」

- I Tを活用した少人数学級におけるきめ細かな指導方法の研究 -

埼玉県熊谷市立星宮小学校

教頭 富田 敏彦

ho001@kumagaya-hoshimiya.e.ed.jp

1. はじめに

本校は、創立以来51年がたつ児童数98名の小規模校であり、学級は各学年1組の単学級である。田園地帯で親子3代が共に暮らしている家庭が多く、校内においてもファミリー的でのんびりとした雰囲気が漂っている。家庭や地域は、教育には熱心であるが、学習においては、自ら進んで行うというほどではなく、学校から出される課題を中心に取り組んでいる程度で、学力はそれほど高いとはいえない。また、パソコン保持率は、30%程度であり、家庭のIT環境も整っているとはいえない。

2. 本校の取組

(1) 目指す児童像

ほ・・・ほんきで
し・・・しんぼう強く
み・・・みんななかよく
や・・・やさしい子



(2) 研究の仮説

本研究を通して、確かな学力をつけることにより、自信を持って表現できる児童が育つであろう。その確かな学力をつけるための手段として、学習ソフトを取り入れ、IT活用力を高めることにより、自ら考え、自らすすんで学習に取り組む児童を育成できる。また、児童のIT活用力が高まることにより、家庭のパソコン普及率も高まり、生涯学習の基礎を築くことができるであろうと考えた。

教職員のマルチメディア活用力を高め、学習ソフトを有効に利用することにより、教材開発よりも指導方法の研究に力を注ぐことができる。次に、全学級において授業研究会を通して、マルチメディアを活用した授業方法の研究を通して、児童一人一人に応じた学習課題の設定、学習指導の充実を図ることにより、学力の定着・向上を図ることができるであろうと考えた。

(3) 研究の目標

少人数学級の特徴を生かし、きめ細かな指導を通して、学習規律を確立し、学力の向上、体力の向上を図る。

児童のマルチメディアの活用力を高め、情報の収集・処理・活用等、自ら考え、自ら進んで学ぶ態度の育成を図る。

教職員のマルチメディア活用力を高め、学習ソフトを有効に活用することにより、児童一人一人に応じた学習課題の設定、学習指導の充実を図る。





3. 実践の経緯・成果

マルチメディア学習室を新設。

- ・オープンルームにパソコン7台、大型テレビ、実物投影機を設置し、学習ソフトは、算数、国語、読書を取り入れ、なるべく公平に使えるように時間割を工夫した。

マルチメディア学習の授業公開。

- ・全学年において、授業参観、フリー参観によりマルチメディア学習を取り入れた公開授業をおこない、保護者からの理解を得るようにした。

指導者を招いての授業研究会を行い、個に応じたよく分かる授業展開の方法の研究。

- ・マルチメディア学習を導入しての一斉指導の方法。
- ・マルチメディア学習を活用しての個々の習熟度に応じた学習方法。授業中、家庭学習。

評価方法の研究。

- ・今までの漢字・計算ドリルや単元終了時の到達度テストを廃止して、通常の学習活動におけるノートやプリント、家庭学習でのプリントの成果から評価をする。

夏季休業中におけるマルチメディア学習室の開放。

- ・個々の習熟度、目当てに応じた自習。生涯学習への基礎。

よりよいマルチメディア学習へ。

- ・各教師の意見、要望をとりまとめ、意見交換により、さらによりよいソフトへとの改訂を望んでいる。
- ・各学年、単元に添った内容のプリントが必要とする種類がそろっているのも、児童の個に応じたものを与えることができる。そのため、教員の教材開発にかかる時間が少なくて済むようになり、指導方法の研究に力を入れることができるようになった。
- ・児童は、この学習ソフトを使って、着実に学力を向上させているようである。

4. 課題

保護者の中には、今まで通りの漢字ドリル、計算ドリルそして単元終了のテストにこだわっている。しかし、保護者による学校評価でのマルチメディア学習に対する評価は、「80.8点」であった。

教師の研修不足から十分な内容のプリントが与えられなかったり、操作が上手にできないために活用しない等の問題があった。そのため、チームティーチングによる授業を取り入れた。

学習クラブから出てくるプリントに、評価の観点が入っていると、児童の得意なところ、つまずき等がわかり、指導に生きると考える。

同じ学習ソフトが各家庭に入るようになれば、「自学・自習」の学ぶ態度がより育つであろうと考える。



基礎学力の向上を目指したパソコンによる補充学習

埼玉県深谷市立桜ヶ丘小学校
教頭 大澤 章一

1. はじめに

本校は、開校以来47年を経た児童数752人の、市街地に位置する学校である。本校は学校教育目標を「自分からとりくむ桜の子」と掲げており、平成17年度は「自分からとりくみ自らを鍛える子の育成」を研究主題とし、教育に関する3つの達成目標をめざして取り組んできた。

2. 本校の取組

平成17年度、本校では新しい取り組みとして、第2パソコン室を設営し、パソコンを使った補充学習を行ってきた。

これは、パソコンによる学習システムを利用し、児童自らがパソコンを使い、自分の能力に合った問題を選んで学習する中で、シミュレーション解説等によって、つまづきを克服し基礎学力を高めるものである。

授業中の決められた時間割の中で全児童が行う他、毎週月曜日の放課後15時より16時まで、埼玉工業大学の学生数人及び小学校のパソコンボランティアの協力を得て実施（「チャレンジタイム」と言う）し、学力の向上を図ってきた。

パソコンによる学習風景



3. 実践の経緯・成果

- (1) 毎週月曜日15:00～16:00まで、3年生以上の学級の、学習の遅れがちな子を優先的に参加させて実施した。
指導者は、埼玉工業大学の学生と小学校のパソコンボランティアで毎週7名程度である。
- (2) 平常授業の中で、能力差に応じた個別指導を進めるため、パソコンを使ったり、プリントアウトした資料を練習教材としたりして活用した。
- (3) 毎週土曜日9:15～11:30まで、深谷市で行っている「がんばルーム」として、自由応募で学習に参加している児童にシステムを開放し必要に応じて活用した。
- (4) 毎週月曜日に実施しているパソコンによる補充学習では、常時20名程度の児童が参加し、学習の遅れがちな子の学力の向上が見られ、楽しく学習に参加している。（82%の児童が「楽しい」と回答し、88%の児童が「学習が分かるようになった」と回答。）
- (5) 保護者の反応も、子どもが補充学習に楽しく参加し、学習がよく分かるようになってきていることを感じ取り、好意的で、期待感を示している。
- (6) 平常の授業の中でも随時活用し、能力差に応じた個別指導で児童の学力向上に少しずつ成果をあげている。



大学生とパソコンボランティア

4. 課題

- (1) 平常の授業時間の活用については、全校児童数が多いため、個別にパソコンを使って活用させる機会が十分でなく、スムーズで効果的な活用が難しい。活用方法の工夫が必要である。
- (2) 毎週月曜日や土曜日に実施している補充学習では、児童の出欠に少しむらがあり、継続的な段階を追った指導が難しい。児童の参加意欲を継続させるためのいっそうの工夫が必要である。



「学習クラブ」を活用して ? 6年生(算数)の取り組み?

滋賀県西浅井町立永原小学校
教諭 村田 良文
top2@mac.com

1. はじめに

本校では、朝自習の時間や2時間目終了後に設けてある15分間の「チャレンジタイム」(注1)の時間にプリント類を用いて「基礎・基本の確実な定着」をはかってきたが、昨年度の校内研究の中で「工夫改善」に有効であったゲーム性を取り入れた計算練習・習熟(注2)を、高学年においてどのような形で取り組めばよいか模索を続けていた。

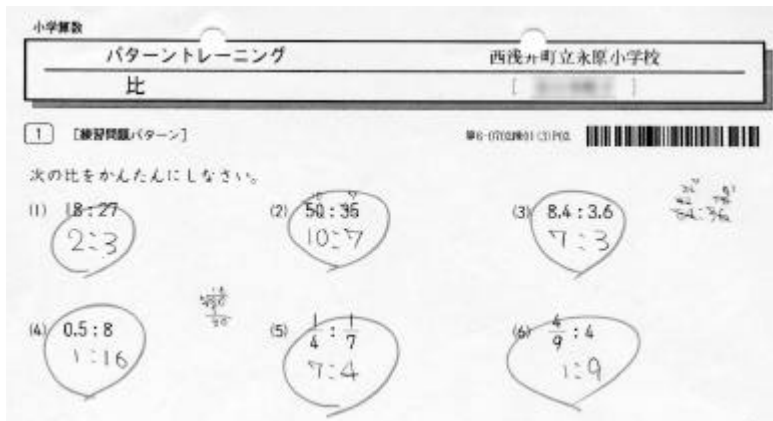


そんな中、興味をひいたものが、「New Education Expo 大阪」で紹介されていた補習教材「学習クラブ」である。この教材は練習問題などをデータベース化し、單元ごとに練習に必要な問題を取り出しやすくしているだけでなく、バーコードを用いて今よりも少し簡単な問題を印刷したり(注3)数値を置き換えた同じような問題を印刷したり(注4)できるようになっている。これらの機能の中で、まずは「問題の取り出しやすさ」に注目して、試験的に導入することにした。

2. 本校の取組

実際の授業の中では、補習教材として以下のような形で取り入れた。

「比」の単元の中の「等しい比の調べ方を理解する」時間では、授業時間の後半で比が等しい



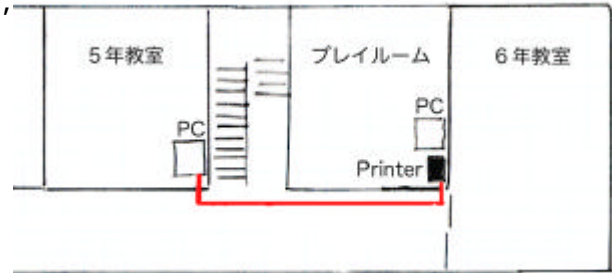
かどうかを調べる練習問題をおこなったが、その中で、比はできるだけ簡単な整数の比にした方がわかりやすいために、なるべく小さな数値の等しい比をつくることを発展的な学習として取り上げ、「比を簡単にする」ことを左記のような「学習クラブ」のプリントで練習した。



あらかじめ問題を全児童分印刷しておき、授業の後半の練習時に配布した。そして、問題練習後、できた児童から同時に印刷しておいた解答を元に自己採点し、その解答用紙を教師がチェック、できた者は自分でバーコードリーダーを操作し同じようなパターンの問題を印刷して取り組む、という進め方でおこなった。

また、「チャレンジタイム」の時間にも同じような取り扱いでおこなった。

「学習クラブ」で重要な要素である印刷環境は、右記のような設定をした。本校では予算の関係でプリンタが1台に限られたので、5・6年生の両学年ともその1台を使用できるように両教室の間にある空き教室「ブレイルーム」に配置した。両教室のパソコンとも有線LANで接続し、5年教室のパソコンからもプリントサーバを経由して使用することができるようにした。



3．実践の経緯・成果

取り組んでみた結果、以下のような点で大きなメリットが感じられた。

- ・ 普段の練習以上に意欲的に取り組むことができた。要因は、バーコードを使って自分で印刷するスタイルに疑似ゲーム感覚を重ねたようである。また、プリントにあらかじめ登録してある児童本人の名前が入るので、「自分のもの」という意識が生まれたのも一因のようである。
- ・ 問題用紙中のバーコードの添付と高速印字プリンタ（注5）の組み合わせにより、短時間に次の問題の印刷を終えることができ、待ち時間の少なさにより次への意欲をつなぐことができた。また、教師側にとっては、以下のようなメリットもあった。
- ・ ソフトが全学年を網羅しているので、つまづいていた場合も、その学年にさかのぼっての復習プリント作成がすぐにできた。
- ・ 教科書に対応しているために、単元に応じた問題を即座にプリントすることができた。

4．課題

- ・ 印刷物を使うと問題になるのが、インクと紙にかかるコストの点である。低ランニングコストをうたい文句にするプリンタとはいえ消費することには違いがないので、行政の予算が削られる中では紙代も含めて学級費で補わざるを得ない。
- ・ 「学習クラブ」は多機能であるがゆえに使用方法に戸惑うことがある。機器に不慣れな教員にも優しいシンプルなライト版があっても良いのではないかと考えられる。

{ 資料 }

(注1) <http://www.town.nishiazai.shiga.jp/nagahara.es/nikka.html>

(注2) <http://www.town.nishiazai.shiga.jp/nagahara.es/2004-05/zyugyo/1nen.html>

(注3) 問題フィードバック

(注4) パターントレーニング

(注5) プリンタ：(株)リコー ジェルジェットプリンター IPSiO G717

生き生きと学ぶ子

- 基礎・基本の確実な定着と個に応じた指導の工夫 -

和歌山県紀美野町立上神野小学校
 教諭 上 太一
 ryuriku@hotmail.com

1. はじめに

本校は、和歌山県北部の山間に位置する全児童数11名の学校です。本校に2学級ある複式学級は、同時間接進行をベースに各教科の学習をおこなっています。

去年のCECで学習クラブというソフトと出会ったとき、上神野小学校の教育目標や学級経営方針案、また複式教育等と大きくぶれることなく活用できるのではないかと直感しました。研究主題である「生き生きと学ぶ子 ~基礎基本の確実な定着と個に応じた指導の工夫~」や研究の方向性である「個を捉え」、「個を生かし」、「個を伸ばす」等を達成する一助としてこのソフトが有効であると強く感じたのです。

2. 本校の取り組み

まず、設備環境ですが、本校には、子どもたちが自由に使えるパソコンが合計7台あります。その内、コンピュータ室には4台あり、それぞれでわくわく文庫が使える、1台で学習クラブが使えるようにしました。各教室にもネットワークに繋がったパソコンが1台ずつあり、学習クラブやわくわく文庫が使えます。ネットワークドライブ設定により高学年教室のパソコンのHDをバックアップとして、いつでもどこでも児童たちが学習の続きをできるようにシステムを組みました。また、漢字トレーニングを進める時に児童が使うマニュアルとバーコード表を作成しました。そして、漢トレ山登りポスターは、子どもたちが一番よく通る廊下に掲示しています。次の級に進むことができたなら、自分の名札が山を登って行きます。子どもたちは、より高い所へ登るためにも、「次の練習プリント出しておこう」と言いながら、バーコードを持ちにいきます。

3. 実践の経緯・成果

1学期。まずは職員、そして児童が使い方を知り、慣れることが先決だと考えました。そのため4月、5月は、学級で自由に活用することとし、問題点があればその都度改善するようにしました。バーコードを読み込んだ時の音が気に入ったのか「ピッピしてもいいですか?」と学習クラブをプリントアウトしたがる姿、休憩中にわくわく文庫で読書を楽しむ姿等が1学期には見られました。2学期には、毎週火曜日の朝に『漢トレタイム』を実施しました。児童会でネーミングの募集をし、ある児童の『筋肉トレーニング=筋トレ』にひっかけて漢字もトレーニングして強くなっていくというアイデアから、『漢トレタイム』と名付けました。目当てを持って漢トレタイムに励んでもらうため『漢トレ山登り』シートを模造紙に拡大して廊下に掲示しました。また、漢字トレーニングの進め方をシステム化した見本シートもつくり、各学級に掲示して自分たちの力で進めるよう支援しました。児童が主体的に活用していく地盤づくりであったと思います。2・3年生では、主に担任が単元や問題を指定して、学習の内容にあわせた宿題として活用しています。しかし、担任が緊急の用事で教室に来る事がおくれるときなど、他の先生が「漢トレ



「漢トレ山登り」シート

の続きしておきましょうか」と声をかけると「はい」と実に楽しそうな表情で学習クラブを操作し、問題をプリントアウトしています。4年生は高学年に操作を教わりながら漢字トレーニングを進めていきました。自分で操作し自分で練習プリントを出すこと自体をたいへん喜んでいました。また、バーコードを使うことが大変うれしかったようです。そのうれしさが漢字の練習をするたびに味わえるので、「漢トレ。漢トレ。」と言いながら、進んで取り組んでいました。算数科でも、習熟度別に課題を与えることができるので、主に宿題に活用しました。発展的な問題を解けたと言っておおいに喜ぶ姿も見られました。5・6年生では2学期に入るとシステムを把握してきたので、単元や問題などは担任が指定しますが、操作やプリントアウトは児童たち自身でおこなえるようになりました。特に複式による算数の時間で進度の違いによる児童間の隙間時間や、教師が学年間をわたる際どうしてもできてしまう隙間時間を、基本プリントや応用プリントに取り組むことで効果的に活用できるようになりました。そして3学期。2・3年生は2学期と同じく漢字トレーニングや宿題などで活用しました。4年生では、1年間の振り返りとして、授業内でも学習クラブを活用するようになりました。児童自身が、「少し忘れたなあ。」「前のところをもう一度してみよう。」と言って、マルチメディア教材を使っていました。5・6年生では学習クラブを活用した授業の工夫に取り組みました。算数という教科を同時間接で進める際、教師の指示でなく児童たちの主体的な判断で授業進行に学習



プリント印刷



マルチメディア解説

クラブを取り入れるようにしたところ学習意欲と関心がさらに高まりました。同時間接法とは児童たちが主体で授業を進めていくのですが、ワンパターンになりがちで学習意欲が上がらなかつたり、いきづまったりしてしまうこともあり、その場合進みようがなくなるという欠点があります。しかし学習クラブを授業進行の一つの選択肢とすることで児童たちの進め方にもバリエーションがふえ、より主体的に学習に取り組むことができていました。6年間繰り返しおこなってきた複式の授業に新たな展開が生まれ、それがいい刺激になりさらに高い学習効果を生んでいるといえます。

このように一年間取り組んだ成果として、児童が主体的に学習する姿がより見られました。反復的要素が高いので基礎・基本の定着に役立ちました。子どもの進度に合わせた練習問題や宿題などを個別につくることができ、個を伸ばすことができました。授業進行に活用していくことで、授業の幅がひろがりました。創意工夫をして学習していこうという姿が児童により見られるようになったことなどがあげられます。また、複式における効果的な活用法が秘められていると強く感じました。

4. 課題

パソコンやプリンタ等の環境が整っていることが不可欠であること。そして、使用する教科書に完全対応した学習クラブ活用の手立てが示せれば、より授業内などでの子どもの主体的な活用の幅が広がるのではないかと思います。また、システムや作業方法がやや複雑なためその把握に時間がかかること、プリントアウトの失敗等で使用する紙の量が増加するということがあげられると思います。

個のニーズに応じた支援をめざして

- 学習クラブの活用による算数教室の取組を通して -

岡山県倉敷市立中庄小学校
教諭 妹尾 朋広
nakasyo-e@mail.goo.ne.jp

1. はじめに

昨年度より岡山県で始まった「きめ細かな指導の推進」として「算数のできるおかやまっ子」育成支援事業に本年度も多数の参加者が集まった。本校では、3年生、4年生、5年生を対象として週2～3時間ペースで放課後算数教室を実施している。算数教室では、算数科に特化し、個



に応じたきめ細かな指導ができるよう地域から3名の教育支援員を迎え、教員と協力して児童の学習の支援にあたっている。学習内容は、百マス計算にはじまり、かけ算やわり算をマスターすること、分数や小数になれること、日々の学習の定着を図るための問題などに数多く挑戦するなどである。また、夏休みなどの長期休業中には、対象外の学年児童からも参加者を募り、全学年実施しているところでもある。

昨年度は、算数教室に参加した児童の中には、算数が得意になり授業がよく分かるようになった子、不得意だった計算が速くなり苦手意識がなくなった子が現れ、当

初の期待以上の成果を収めることができた。

しかし、参加者が多く、一人ひとりの望みに応じることができなかつたり、日々の授業や雑務に追われ教育支援員と十分打ち合わせをする時間を確保できなかつたりと課題も多く見つかった。本年度は、昨年度の実践をふまえ、コンピュータによる学習支援を充実させることにした。

2. 本校の取組

昨年度は、長期休業中を中心にコンピュータ室での算数教室の実施を行ってきた。使用したのは、教科学習支援ソフト「インタラクティブスタディ」である。サーバーと校内LANを使って情報コンセントがある教室



ではどこでも使える環境が整っていることもあり、算数教室ではたびたび活用してきた。そこでは、コンピュータ画面にとらめっこの児童、ノートを手手に筆算に取り組む児童とふだんの授業では見られない集中力をどの児童も発揮している。

基本的に子ども達はコンピュータを利用し学習を好むのであるといふことを再認識することができた。ただ、コンピュータ画面に直接入力していくタイプの学習は、意欲をもって取り組む一方、個々の学習の歩みが残りにくく、学習を振り返り、以前の自分の取り組みと比較しにくいという欠点があることも事実である。

今回は、これらの欠点を補うため、プリン学習でありながら、コンピュータを使って個に対応する「学習クラブ」を導入することとした。

3. 実践の経緯・成果

放課後の算数教室は、スタディルーム(3,4年生の算数少人数の授業で活用している)で行っている。学習クラブの活用環境は、ノート型コンピュータ4台(内、1台はプリントアウト専用として活用、残り3台がマルチメディア解説用)とリコーのGELJETプリンター1台をネットワーク上で動かす形を取っている。算数教室は週最大2回しかとれない。少人数指導での活用を期待して一カ所集中配置が望ましいと考え現在の配置とした。

実際の算数教室の流れは、以下の通りである。



(1)百マス計算 (事前に印刷したプリント使用)

教師もしくは支援員がタイムを計り、児童は毎回画用紙に貼っていくことで記録を残す。

(2)パターン1

教師が取り組む単元を事前に決めておき「学習クラブ」を使ってプリントアウトしたものを人数分印刷する。児童はこのプリントが済むと各自取

り組みたい問題のプリントを作成する。

パターン2

単元の理解状況を見るために到達度テストを行い、そこから各自のプリントを作成していく。

(3)問題が解けると解答を印刷し、各自で答え合わせをする。

(4)解答状況を教師や支援員が確認し、パターントレーニングに取り組ませたり、さらに簡単な問題フィードバックに導いたり、要点フィードバックやマルチメディア解説を確認させたりする。

(5)やり終えたプリントは次回の確認のため画用紙に貼り重ね記録として残す。

算数教室参加の5年生児童にアンケートを実施した。児童の意識は期待以上であった。(表1)



アンケート内容	はい	いいえ
「学習クラブ」を使う学習は楽しいですか	36人	0人
ドリルやふつうのプリント学習より集中して取り組みましたか。	36人	0人
理解が深まりましたか。	32人	4人
コンピュータ室での学習より効果がありましたか。	14人	18人
「学習クラブ」をもっと使いたいですか。	36人	0人

表1

・インタラクティブスタディを使った学習が効果的と答えた児童も自分の学習がファイルとして残ることには肯定的であった。

・3年生や4年生へは口頭で感想を聞いてみた。

・簡単にプリントができるから楽しい。

・友達と違う問題ができるから自分で考えているような問題に挑戦しようと思う

・気がついたら授業中にするよりもたくさん問題を解いていた。

・お店にあるバーコードを使っているみたいで勉強が楽しくなった。



4. 課題

まだ取り組み始めて間がないため、算数教室のみでの実施となったが、本来は授業の中で積極的に活用すべきものであると感じた。特に習熟度別少人数指導では威力を発揮するものとする。少人数指導では、クラスの人数が少ないだけにより一層のきめ細かな指導が期待されているが、すべての児童に対処することは難しい。本システムを使えば、児童それぞれが別々の単元の問題に取り組みながら教師から適切な支援を受けることが可能である。ぜひとも日々の授業に活用していきたいと思う。また、コンピュータの操作に不慣れな教師や児童にとってもこのシステムは意外に簡単で扱いやすく、敬遠しがちだった教科へのコンピュータ導入が全学年で行えそうである。

今後研修回数を増やすとともに、いろんな可能性を見いだしていきたい。

「学習クラブ」を活用して 3年生（算数）の取り組み

岡山県倉敷市立中庄小学校
教諭 青山 薫
nakashou-e@mail.goo.ne.jp

1. はじめに

本校では、算数教育の充実を目指し、少人数での指導や、算数教室などに取り組んでいる。また、朝学習の時間にはプリント類を用いて基礎基本の定着をはかってきた。

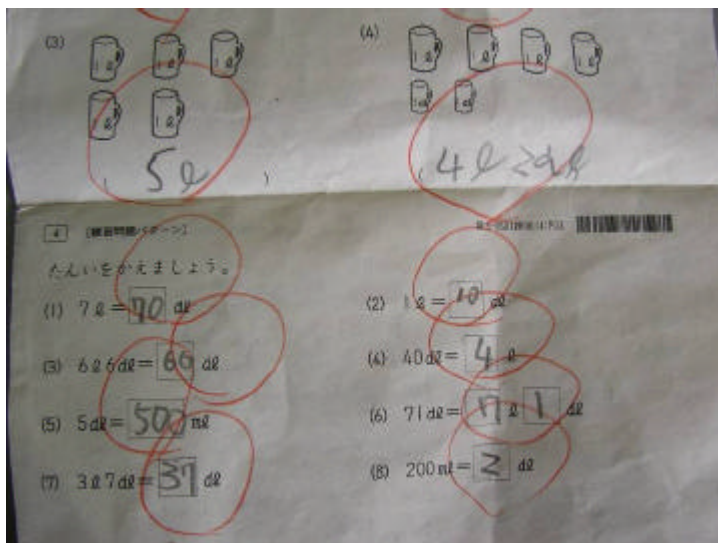
新採用である私には手持ちの学習教材やプリント類がなく、また、児童の力に合った教材をどうやって用意していくか思案していた。

そこで、興味をひいたものがパソコンにインストールしてあった「学習クラブ」であった。このソフトは単元ごとに問題がデータベース化されており、練習に必要な問題を取り出しやすだけでなくバーコードリーダーによる入出力方式を採用して子どもにも扱いやすく、パソコンのキーボードに触れることなく問題をプリントアウトできる。また、問題のバーコードに対応したマルチメディア解説が用意されていて動きのある図解と音声による丁寧な解説を何度でも聞くことができる。このような機能の中で、まずは問題の取り出しやすさに注目して使っていくことにした。



2. 本校の取り組み

実際には補習教材として以下のような形で取り入れた。



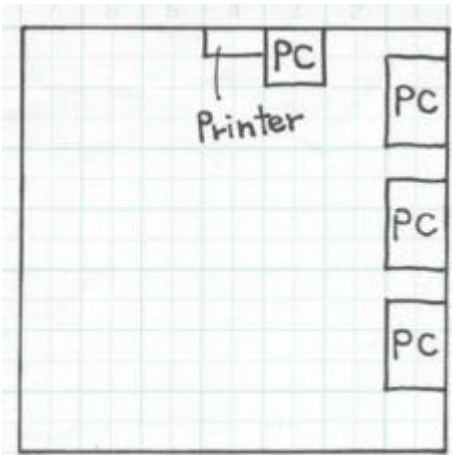
算数教室で

算数教室ではプリントによる問題練習が主であったが、用意していた課題をやり終えた児童は学習クラブを使って練習した。あらかじめ学習した単元の問題を全児童分印刷しておき、配布。教師が採点、チェックし返却、児童が自分でバーコードリーダーを操作し、間違えた問題

学習の時間で

朝学習の時間は8:20~8:30までの10分間。前日の授業で学習した内容が表裏に印刷されたプリントを使って自習をすすめた。あらかじめ問題を全児童分印刷しておき配布。問題練習後、できた児童から印刷しておいた解答をもとに自己採点し、その解答用紙を教師がチェックした。後日、間違えた児童の多い問題と同じパターンの問題を用意しておき、朝学習の時間や宿題として配布していった。

の類題パターンを印刷して取り組むという進め方をした。また、マルチメディア解説用のパソコンも3台用意し、わからない問題については解説を視聴できるようにした。印刷環境、パソコン環境は右記のように設定した。使用した教室は少人数の算数用教室「スタディルーム」。問題出力用のパソコンが1台、プリンタが1台、いずれも立って操作できるようにした。残りの3台はマルチメディア解説用として椅子に座ってじっくりと視聴できるようにした。



3．実践の経緯・成果

朝学習の自習プリントとして使用した場合については、やり方、採点方法に慣れるにしたがってはやく確実に問題を解けるようになった。問題数が手頃で、また余白も十分にあるため考え方や計算式など大きくゆったりと書き込むことができ、教師のチェックや直しも書き込みやすかった。苦手意識のある児童でも、語句の説明や基本問題などがまとめられた要点のプリントで何度も繰り返し学習することで力をつけていくことができた。

算数教室での使用については、自分で問題を出力していくことで、自分の苦手な問題を知るという意味でも有効だったと感じた。間違えた問題の類題も、実は同じ要領で解くことができるということが体験できていた。また、マルチメディア解説を熱心に聞き、再び問題に取り組むという児童の姿も多く見られた。

4．課題

朝学習の時間では自己採点后、教師が追加のプリントを用意するのではなく、児童が自分で類題パターンの問題を印刷できれば自分の進度にあったプリントができるのではないかと思った。追加のプリントを印刷できる環境を教室に用意できれば理想的なのだがパソコン・プリンタとも台数に限りがあるので、空き教室やスタディルームを利用して自由に印刷できる環境を設定していければよいのではないかと考えている。

算数教室では出力用パソコン1台に児童が集中し、列ができていたのでもう1台くらい印刷用に回したほうがよかったのではないかと思った。問題を解くのが速い児童はどんどん進めていってしまうので、そういった児童の学習意欲が下がらないように印刷環境を充実させていくことも課題に挙げられる。また、児童の印刷する問題は類題なので答えがそれぞれ異なっているため、採点に追われてなかなか指導に回れなかった。答えと一緒に印刷して自己採点というのも考えていたが答えを印刷すると用紙が2倍必要になるのでこのあたりは予算と相談していかなければと思った。

3年生ではパソコンの操作自体が不慣れな児童もたくさんいて、自分達で問題を選択し印刷するという行程を授業や朝学習の中では徹底できておらず、教師が代行した部分が多かった。高学年になればこのあたりの問題は解決できるので、意欲を持った、自主的な取り組みが期待できると思った。

「学習クラブ」の活用を通して - 基礎学力の定着を図るために -

香川県坂出市立府中小学校
教諭 増井 泰弘
fwgd8848@mb.infoweb.ne.jp

1. はじめに

校区の府中町は、香川県坂出市の東南に位置し、かつて讃岐国の国府が置かれていたところで、政治・文化の中心地として栄え、歴史と伝統に育まれた町である。綾北平野に広がるこの町は、中心部に綾川の清流を見、それを包むように城山、天満山などの由緒ある山に囲まれた、緑豊かな里である。

府中小学校に赴任し、子どもたちに基礎学力をいかに身に付けさせるか、ITを活用して学力をいかに定着させるかを検討していたところ、「学習クラブ」を紹介いただいた。IT機器と従来からのプリント教材の双方のいいところをうまくミックスさせた新しいタイプの教材との出会いであった。この教材を活用することで、子どもたちの基礎学力の定着を図るのに、少しでも役に立てばと5年生の1クラスにおいて試験的に導入を行うことにした。

2. 本校の取組

5年西組（男子15名、女子7名、計22名）の教室での活用が中心であった。クラス用のノートパソコンに「学習クラブ」等をインストールした。ノートパソコンは、教師用の机の横に常設し、リコーのジェルジェットプリンターをつないだ。授業中には、ノートパソコンをプロジェクターとつなぎ、黒板に貼ったスクリーンに画面を投影し、一斉授業においても活用を図っていた。

3. 実践の経緯・成果

(1) 学習クラブ 算数

宿題プリントとしての活用が多かった。日々の授業で学習した内容に関するプリントを宿題とすることで、学習内容の定着を図っていった。また、単元の終わりには、確認プリントや到達度テストを活用することで、学習内容のより確実な定着を図った。主に休み時間や給食の時間に印刷を行っていたが、授業中でも印刷は可能である。（プリンターの動作音の大きいのが気になるが・・・）プリントそのものは、両面印刷したものであるが、一枚に印刷された問題数はそれほど多くないので、子どもたちも無理なく取り組むことができていた。同じ内容、関連の問題を多くこなすことで学習の定着が図れたようである。



また、一部の単元では（小数等）マルチメディア解説を授業（一斉学習）で使い、学習内容の解説として活用した。マルチメディア解説は、全編を流しっぱなしにするのではなく、適時再生を停止して教師がさらに詳細な解説を加えるといった形で活用した。子どもたちにとって、IT機器やマルチメディアを使った授業を受けるということが初めてだったので、戸惑う場面もあったが、概ね興味を持ち、意欲的に学習に取り組んでいたようである。

長期休業中には、前学期に学習した単元全てを復習プリントとして印刷し、配布した。プリントの枚数は多くなったのだが、1枚にかかる時間はそれほど多くなく、ほとんどの子どもたちが無理なく取り組むことができていた。難なくこなす子ども達の姿に驚かされた。

(2) 学習クラブ 国語

国語でも、算数と同じく宿題プリントとしての活用が多かったが、分野ごとに問題をプリントし、活用する場面が多かった。教科書で説明文の単元を取り扱っている時には、前学年（たとえ

ば4年生)の説明文の分野のプリントを用意するなどして、現在授業で学習していることの基礎・基本となる部分の確認をさせるなどに活用した。「注文の多い料理店」の学習では、授業前に導入として、授業後には内容の定着を図るためにプリント学習を行った。同じ場面を何度も何度も読み返すことで、内容を深く読み取ることができるようになった。

(3) ABメソッド

子どもたちに一番受け入れられていたのが、ABメソッドである。社会科などの授業の前に都道府県名や世界の国、国旗などをフラッシュカード的に子どもたちに見せるなどした。ゲーム感覚で、楽しく取り組めるので、子どもたちもかなり乗ってきて、知らないうちに都道府県名などを覚えることができていたようである。また、スピード暗記やイメージ記憶なども、朝の会の時間や授業前のちょっとした時間にゲーム的に行うなどした。短時間で言うことで、その後の授業への集中効果もあった。

(4) 漢字トレーニング

前年度までに学習した漢字を級ごとに印刷して漢字練習プリントとして活用した。当初漢字トレーニングを利用した漢字検定を行おうと考えていたが、今年度実施には至らなかった。

子ども達には、A4のファイルを学習クラブ用として渡していたのだが、いっぱいになり、2冊目3冊目(実際には、同じファイルですが...)と増やしていった子ども達も多い。こなしたプリントがどんどんとファイルされていくことで達成感や充実感を感じている子も多い。ただ、配布されたプリントをこなせないという子もいた。バーコードを活用し、問題をフィードバックさせたり、類題を与えたりするなどの活用ができるのであるが、教師側が一方向的にプリントを与えていたため、運用方法として課題が残った。



4. 課題

当初、コンピュータの画面を常時黒板に映してといった環境が十分整っていなかったのが、マルチメディア解説をうまく活用することができなかつたのが残念であった。授業内容の説明の一部として活用して行くことができればと思う。(18年度は、教室にプロジェクターカーブを用意し、常にコンピュータとつないだ状態での活用を検討)

また、今年度は、教師が校務でも使用するノート型コンピュータにインストールし、活用していたため、プリントの用意をほとんど教師が行っていた。子どもたちが自分たちのペースで自由に使うという状況を作れなかつたのが残念である。バーコードをうまく活用し、子どもたちが自分で必要なプリントを用意し、学習を進めていくことができるようにする必要がある。(18年度は、教室常設のデスクトップコンピュータにインストールし、プリンターや関連資料をおくスペースを作り、バーコードを活用し、印刷も子どもたちが自分でできるような環境を検討)



宿題プリントとしての活用が主だったので、それ以外の活用方法を検討したい。(18年度は、朝のドリルの時間(チャレンジタイム 8:05~8:25)の有効活用を検討。全員が同じプリントに取り組むのではなく、習熟度にあったプリントを自分たちで選択し学習を進めることができるようにする予定)

また、放課後の補充の時間(パワーアップタイム)を活用し、基礎・基本の確実な定着を図ることができる方法を検討する必要があると感じている。

心豊かにたくましく生きる生徒の育成

- TT 指導・少人数指導における IT の活用 -

山形県米沢市立第三中学校
教諭 岡村 哲幹

1. はじめに

本校は、米沢市内でも雪の多い西部地区に位置し、校舎から見える御成山ジャンプでは、平成14年度に全国大会、平成17年度に東北大会が開催された。全校生徒456人、各学年4学級の中規模校で、今年度は県の教育プランである『さんさんプラン』により、重点教科副担任制度を取り入れた。

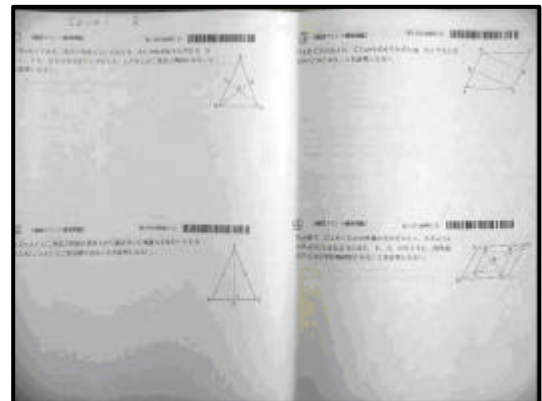
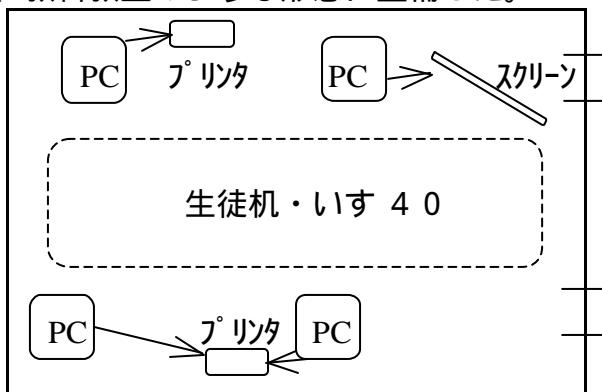
数学科では、少人数指導¹（1・3年生）とチームティーチング（2年生）を行い、基礎・基本の確実な定着を図ってきた。

1 2つのコースわけによる少人数指導

- ・基礎コース...数学が苦手な生徒を対象とし、教科書の基本的な内容を中心に、課題解決にあたっては時間的なゆとりを持たせながら学習し、基礎の定着を図ることを目標に行う
- ・発展コース...数学を更に得意にしたい人を対象とし、教科書を学習した後、数多く演習問題に取り組み発展的な力をつけることを目標に行う

2. 本校の取組

学習室にパソコン3台とプリンター2台、パソコン1台と大型スクリーン1台を設置し、教科教室のような形態に整備した。



2年学習プリント

(1) 授業での取り組み

2年生では、単元「三角形と四角形」で、次のような流れで行った。

要点バーコードで授業内容を復習。

基本問題を一齐に行う。

-1 できたら丸つけ 正解なら類題へ、誤答は見直し。

レベルを手がかりに、自分で問題をプリントアウトする。

-2 できなかつたら問題フィードバックで確認しながら戻ってくる。

-3 問題フィードバックで確認できなければ、要点バーコードでアニメーションを見て、T2の支援を得ながら、問題の解き方、考え方を理解する。

3年生では、2つのコースが教室と学習室を交互に使用し、3月10日の公立高校入試に向けて、アドバンス問題に取り組んだ。問題集やプリントで問題を解きながら、つまずきやすいところや苦手と感じる部分をピックアップしておき、分野やレベルを自分で選んでプリントアウトし、弱点部分の強化を図った。

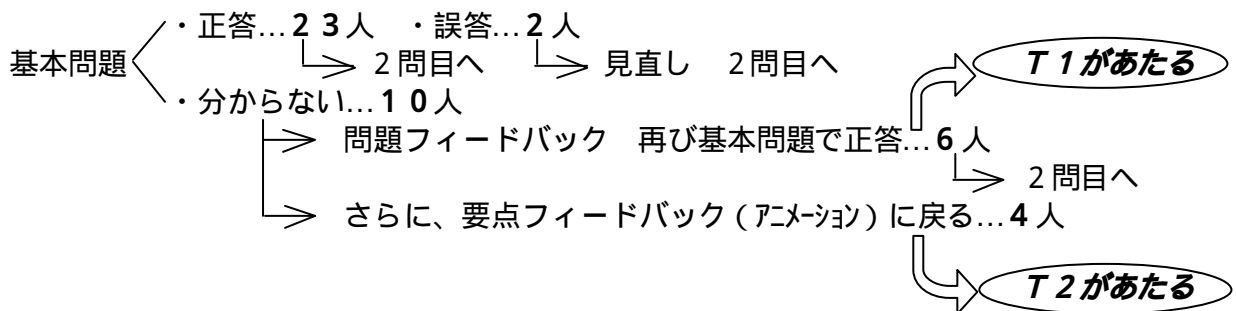
(2) 授業以外の取り組み

部活動を引退している3年生に限り、使用マナーを確認し、放課後に学習室を開放した。授業中に終わらなかった問題を解いたり、家で勉強したいところをプリントアウトしたり、必要に応じて使用できたようだ。

- ・名簿に をつけて使用すること
- ・教室内では話をせず、集中して学習に取り組むこと
- ・パソコンやプリンターについては、決められた操作以外のことはしないこと
- ・きちんと整理整頓して帰ること

3 . 実践の経緯・成果

2年生では、理解の手助けとなる問題、考え方を発展させる問題への方向付けを行えるように仕組み、いろいろな段階の問題にあたらせた結果、一斉(35~36人)に取り組んだ基本問題において、ほぼ全員が理解することができ、半数以上の生徒が発展的な問題に取り組んだ。(以下はおおよその人数)



3年生では、アンケートから、苦手分野に対する抵抗が少なくなった、自分で選択することで意欲が高まった、根気強く取り組めるようになった、との感想が多かったが、成果を具体的な数値で示すまでには至らなかった。

4 . 課題

- ・多くの問題の中から、分野やレベルを手がかりにして、目的にあった問題を選んで取りかかることができる反面、自分がやっている問題が、全体のどのあたりに位置し、どのくらいの達成度なのか、ということがつかみにくく、生徒が系統立て問題にあたるような支援を工夫しなければならないと感じた。また、問題の選び方や学習の進め方によっては、混乱してしまう生徒もあり、(ある分野を一からおさらいしようとしたが、知識や考え方の基礎を身につける段階で、一つのことにとらわれすぎたり...) 目的を明確にしたり、適切にステップを踏ませることなども必要であると思われる。
- ・コンピュータ操作の指導、学習室を使用する時間の確保など、コンピュータやソフトを使用するにあたって、抵抗となるものを取り除き、使いやすいと感じて使えるものとしていきたい。

生きる力をはぐくむ教育課程の創造

- 教育に関する 3 つの達成目標を踏まえた教育活動の工夫・改善 -

埼玉県深谷市立藤沢中学校

1. はじめに

藤沢地区は深谷市の南部に位置し、(2006/1/1以降は、市町村合併により中央に位置) 駅からも市街地からも離れており自然に恵まれた地であり、生花や農業を中心とした土地柄である。学校行事への保護者の参加も多く教育への関心は高い。本校の生徒数は343人、1年生3クラス、2年生4クラス、3年生3クラス、特殊学級1クラスの合計11クラスの小規模校である。生徒は全体的に明るく活発であるが、時と場に応じた判断や行動がまだできないといった面も見られる。

2. 本校の取組

授業での取組

- ア 基礎・基本を踏まえ、各教科で「身につけさせたい内容」を定着させる授業を実施する。
- イ 各教科の年間教育計画の中に3つの達成目標に関する指導を組み込む。
- ウ 少人数指導などの個に応じた指導の充実(国語、数学)。

生徒活動の時間の活用

- ア 週に1度放課後に時間をつくるため、木曜日を清掃なし、原則部活動なしとして、「生徒活動の時間」を設定した。この時間は普段は部活動などでなかなか活動ができない活動に当てている。(生徒会活動、集会、学習クラブ)
- イ 学習支援ソフトを利用した自主的な学習。
基礎基本の定着には繰り返し学習をすることは欠かせない。しかし授業時数や学習内容の関係で毎時間の授業の中での実施はなかなか困難である。そこで基礎基本の定着をめざしたいと考え毎週木曜日の朝と放課後に学習の時間を設定し、プリント学習に取り組んだ。さらに希望者は「学習クラブ」として自主的にパソコンを使い個々に応じたプリント問題を取り出し学習を行い、基礎的・基本的な内容の定着を図った。

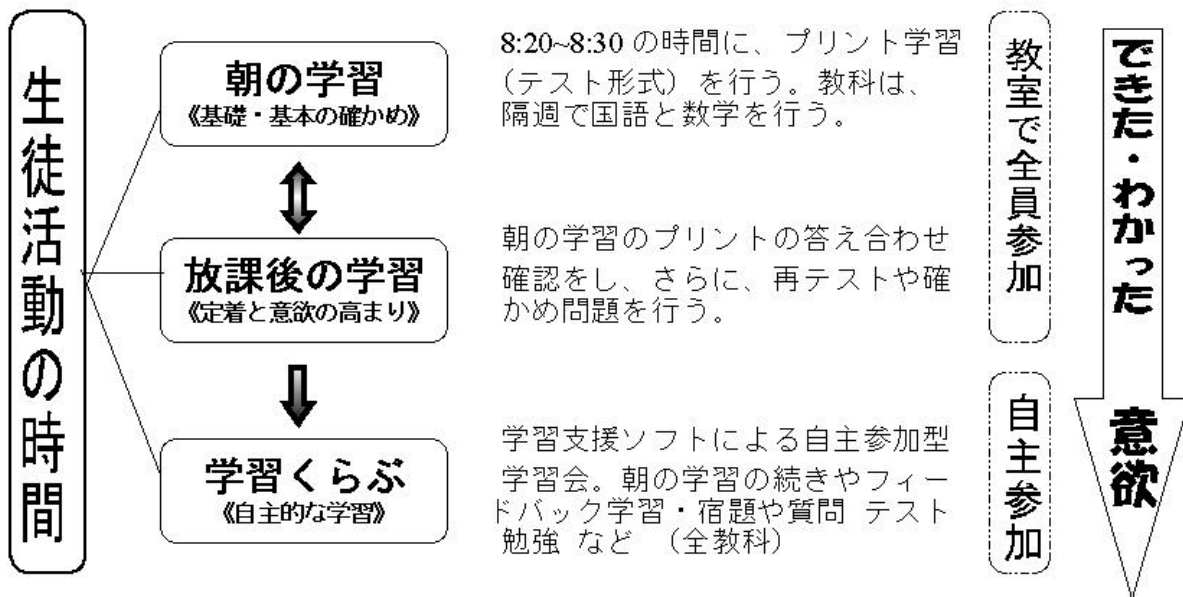


各自に合わせてプリントを印刷



パソコンで説明解説を見る

3. 実践の経緯・成果



2学期に入ってから、放課後の自主学習への参加に積極的になってきた生徒も見られる。今まで部活動優先だった生徒の中にも、木曜日の放課後は学習くらぶに参加する生徒が増えてきた。また、そういう仲間の姿を見て、「自分も行ってみよう」、「苦手教科やテスト勉強に利用してみたい」、「自分に必要なプリントがほしい」、という声も聞かれた。何回か参加している生徒は、「今度いつあるのですか」、「またやりたい」と意欲向上の声も聞かれる。

< 2学期の学習くらぶに参加した生徒の感想 >

たくさん印刷して単語がすごく覚えられそう。
また今度来たいと思った。（3年）

家で勉強するより、涼しくてやりやすかった。
（3年）

快適だった。すぐ調べることができるので、図書室
でできて良かった。（3年）

自分のレベルがわかっていないで、やみくもにパソ
コンから問題を出しても無駄な気がする。
（3年）

こういう学習を増やしてほしい。（2年）



感想の中にも、「これからも続けてほしい」「またやりたい」等の感想が多く見られ、「学習クラブ」のソフトの有効性を感じられるものであった。

4. 課題

「学習や生活を見直す」アンケートによると、学習の理解の推移を見た限りでは、学年が進むにしたがって理解の割合は減少していくのが常であるが、5つの教科では逆に3月より理解できているという回答を得ている。成果としては英語の単語テストや漢字テストなどを取り組んできた結果、「書くこと」は習慣化されてきたといえる。しかし、リピーターは多いがまだ参加者は限られているので、生徒活動の時間の自主学習が多くの生徒の習慣となるためには、今後も継続させていくとともに、学習クラブ室を常設するなど、設備の改善を図りながら、週に一度の学習を定着させていく必要がある。

学習クラブ

- 学習クラブ活用の初年度 -

愛知県小牧市立光ヶ丘中学校
辻 裕太
yuuta-tsuji@komaki-aic.ed.jp

1. はじめに

本校は、市内においても学習面に力を入れている学校であり、近年ではITを積極的に取り入れた教育を目指している。本校の教育目標である「生涯を通して学びつづける生徒を育てる」を目指し、生徒一人ひとりを大切にしたい環境づくりを目指していききたい。

2. 本校の取組

今年度よりパソコン22台を設置した学べる教室、『学習相談室』を新設した。そして主に以下の3つにおいて『学習クラブ』を活用した。

授業中の取出し

- ・ 普段の授業では学習内容についていけない生徒や、学習能力や態度に問題がある生徒を5名取出し、学習クラブ活用による個別学習を行なった。
- ・ 各生徒にプリント専用ファイルを渡し、自分がどれだけやったのか分かるようにした。ファイルはどんな時でもプリントを見たりファイルできるよう、学習相談室内に保管した。
- ・ 開始当初は小学の国語や算数を活用して学習した。基本的に勉強する事が難しい生徒だったため、3枚という一日の目標を決め学習し徐々にその目標を高くしていった。
- ・ 基本パターンとして、マルチメディア解説(2回ほど) プリント学習 答え合わせ 教師の解説 マルチメディア解説 のような流れで学習を行なった。
- ・ また現在では不登校生徒1名への学習支援も行なっており、各科目の学習プリントをこなしている。

選択数学

- ・ 生徒希望の選択数学の授業に活用した。基本的に生徒の自主性に任せ、本人の苦手な分野を中心に学習を行なった。
- ・ 受験勉強への対応学習にも活用し、生徒が自ら弱点を克服していくという環境がつけられるよう指導した。

テスト・受験対策学習

- ・ 年間計5回の試験対策学習のため、学習相談室を『昼放課』・『業後～最終下校時刻(季節により異なる)』の時間帯に開放した。混雑を予想し、日によって使用できる学年を決め集中して学習できる環境を作った。
- ・ あらかじめ全校生徒の生徒登録を行ない、誰でもすぐにプリント作成できるようにした。学習クラブ使用方法は来た生徒から教え、あとは生徒への口出しは出来るだけ避け、自主学習という環境を心がけた。
- ・ 3年生の受験対策においては、希望者のみ業後の時間を確保して学習をさせた。

3．実践の経緯・成果

授業中の取出し

- ・ 現在取出しの生徒が5名いるが、『学習クラブ』によりそれぞれに合った学習方法を見つけることができた。
- ・ いずれの生徒も活用前に比べ、学習に対して大きな意欲を持つようになり学習能力も向上した。例えば英語ではアルファベットも書けなかった生徒が現在は単語や基本的英文も理解出来るようになり、これは学習クラブなしではこのような成果は得られなかった。

選択数学への活用

- ・ 3年生選択科目数学の学習能力向上を目的に活用され、生徒自身の苦手分野を克服する意欲を身につけることができた。
- ・ 受験勉強にも活用し、生徒達からも「使って良かった」という声が多く聞かれた。

テスト・受験対策学習

- ・ 学期ごとのテスト対策や受験に向けての学習に生徒達が意欲的に『学習クラブ』を使用することができた。テストに「同じような問題が出た」と言って喜んでいて生徒が多くいた。
- ・ 一度に50枚以上のプリントを刷っていく生徒もあり、成績があがったという生徒も何人かいた。
- ・ 授業への予習・復習に対しても活用しようとする生徒が増え始め、『学習クラブ』は我が校にとって無くてはならない存在となりそうである。

4．課題

今後の課題としてまず取出しについては、やはりある程度の個々の学習カリキュラムを作成することが必要である。それぞれの状況に合わせ、時間数やカリキュラムを決めそれにそって学習していくことでより効果があるのではないか。来年度は取出し生徒をできるだけ早く選抜し、個人カリキュラムの作成をしたい。選択数学においては今年度と同様の形で、学習クラブを授業の中に取り入れていきたい。

本校で学習クラブを活用し最も進めていきたいのは、やはり自主学習やテスト対策への活用である。今年度はある程度の開放日や開放時間を決めて学習をさせたが、来年度は『自主・自由』を基本とし多くの時間を開放していきたい。その計画案として開放日をほぼ毎日、そして開放時間を授業後はもちろん放課にも幅を広げていきたい。わずかな時間にも活用できるような環境を整えていきたい。また長期休暇中にも開放日を設け、生徒が気軽に学習できる場を提供してやりたい。

今年度の反省点として、生徒が思っていた以上に『学習クラブ』の存在を知らなかったことである。一部の生徒の中で活用されている現状を打破したい。対応策として4月当初に紹介する時間を設け、プリント等も作成したい。また各学級や授業において活用したり紹介する時間を作るようにしたい。各職員とともに協力体制で、学習クラブをより活用できる物にしていく。

来年度も『学習クラブ』を活用できる喜びを感じ、生徒達の学習への手助けとなれば良いと考えている。

感動を呼ぶ授業の裏付け

- やる気があれば基礎基本が身につく自信と確信があればこそ -

北海道小樽桜陽高等学校
教諭 岡部 一良
dkv8cy@hokkaido-c.ed.jp

1. はじめに

今年で創立百周年を迎える歴史と伝統のある学校で、各学年7クラス全校生徒840名です。小樽運河に通じる小樽港を見下ろす丘にあり今年の1月に完成した新校舎で学んでいます。船の出港入港を見ながら授業しています。95%以上が進学する進学校で、70%以上が部活動に加入し活発で更に、自主的なボランティア活動も盛んで独居老人宅の除排雪活動に吹雪く年などもあります。200人程度参加し20年程の歴史があり毎年感謝される心地よい汗をかいています。

2. 本校の実態

本校の特徴として主要教科の一つを不得意とする生徒が多く、その中で数学を不得意としている生徒は、小中高と算数、数学と付き合ってきている。その多くは学習に疲れ、数学のとらえ方がよじれ、もつれて嫌う心理状態に陥っている。そこで授業をしても“今日はどんな難しいことをやるのだろう”“この難しい授業はどこまで果てしなく続くのだろうか”と、やるせなくあきらめにも似た気持ちになっている。数学を教える者としては、どうしたら“やる気”が出て目を輝かしてくれるのだろうかと常々考える。また、教える側の責任の重大さに日々苦しんでいる。

3. 取り組みの目的・意図

個々人の学力に合わせて段の薄い階段を一段一段昇るようにきめ細やかな取り組みをして学力向上をさせ定着させる。特に劣等意識を逆撫でしないように配慮する必要がある。それは小学校の教科書を引っ張り出したりせず解らない所は出てきたときにその都度フィードバック（現地調達学習）する教材が必要になる。個人の理解度が異なるのでIT教材、個別学習が有効な手段になる。また、その年齢に適した教材を西洋の数学の単線的な学習のみでなく、和算、東洋の数学、折り紙等の思考を取り入れる複線的な教材開発、研究が必要になってきている。最近、脳の研究が進み言語や絶対音感など幼少期の脳にしか記憶出来ないことがある反面、池谷裕二氏（東京大学薬学部講師）によれば、丸暗記は子供の方が優れていますが、大人は経験として覚える記憶即ち、神経細胞のネットワークと関係のある情報がうまく結びついて「ああ、

これってそういうことだったんだ」と理解できることが増えて脳（海馬）が活性化して理解し記憶するので優れている。高校生の指導は、この後者の脳（特に記憶を司る海馬）の特性が現地調達方式にも繋がりやる気の意欲を喚起させ学習意欲の醸成になる。教授者のトータルした理解させる教材をしっかりと把握しておくことが自信と確信に満ちた指導を生む源泉になり生徒に伝わり感動を呼ぶ授業へと結びつくと考えます。

4 . 本校での取り組み

本校では、意欲はあるが今ひとつ自信が持てないあるいはしっかり理解したい生徒に活用するように進めております。昼休み、放課後パソコン教室で利用しています。マイペースで自分の思ったように必要な分だけプリントアウトが出来、あたりを気にせず学習できる。また、ヒント解答が詳細で納得しながら学習を進めることが出来「理解できなかつたら」と言う不安を払拭して安心してしっかり学習でき「私もやれば理解出来る」ことが意欲やる気につながり生徒に好評です。そこから更に進んで 英語ヘトライしている生徒も増えてきています。取り組んだ 生徒の感想を載せます。「数学に関しては、細かい所まで説明してくれたり、ヒントなどもあるのですぐに答えを見ようとしてしまう私にとってはとても良いものだと思います。更に、基本だけやることも応用だけやることも出来るので個人個人の level にあった内容を学習できると思います。応用問題の解答が長いというところもありましたが、それも学習している人に必ず理解させる作った方の意気込み熱意からなのではないかと感じました。」「学習クラブに取り組んでの感想は、英語の単語の方は日本語訳と英訳を分けて印刷出来るところが便利だと思いました。level 分けもあるので自分にあった勉強が出来ると思いました。自習のときに一齐に使うというよりは、個人個人で利用した方がより効果を発揮するように思いました。単語は授業だけでは時間、量共に少なくセンター試験では間に合わないのでどんどん活用した方が良いと思います。」

5 . 今後の課題

今後の課題としては、このソフトの利用者を増やし有効性を認識させることだと考えます。苦手意識を払拭させて自信を持って数学に望むことが出来るようになり、強いては成績が向上することを目指したいと考えているところです。

つまずきの指導

- 幸手高校「学力伸ばし隊」の取組 -

埼玉県立幸手高等学校
教諭 金子 英希
h-kaneko@satte.ed.jp

1. はじめに

本校の生徒は小・中学校の学習の段階でつまずいている生徒が多い。毎年行っている生徒実態調査では、約7割の生徒が小・中学校でのつまずきを実感している（表1参照）。つまずきの理由としては「家庭学習が不十分だったから（32.6%）、授業をよく聞いてなかったから（29.7%）、遊びすぎたから（16.7%）」などがある。本校では生徒のつまずきを成長の一部と捉え、つまずきを克服するための取組（学力伸ばし隊）を行っている。

表1. つまずいた時期

	国語	数学	社会	理科	英語	平均
小学校1,2年	2.6%	3.9%	4.0%	3.9%		3.6%
小学校3,4年	5.2%	9.6%	6.9%	6.9%		7.1%
小学校5,6年	5.7%	12.9%	9.3%	8.9%		9.2%
中学校1年	17.3%	20.4%	25.0%	20.9%	37.8%	24.3%
中学校2年	18.9%	23.5%	15.0%	20.4%	23.0%	20.2%
中学校3年	9.7%	7.7%	7.2%	8.1%	8.9%	8.3%
高校入学後	7.8%	5.5%	10.0%	9.4%	9.5%	8.4%
つまずきなし	32.7%	16.3%	22.4%	21.3%	14.3%	21.4%

2. 学力伸ばし隊の取組

この取組は、平成15年度より学習に不安のある生徒を対象に開始した取組である。平成16年度からは、学力に不安のある生徒だけでなく、よりハイレベルな問題に挑戦したいという生徒も対象とした。

ここ数年「学力伸ばし隊」には約50名の生徒が登録している。これら生徒一人ひとりに合った問題を作成するのは教員にとって大変な作業であった。また、よりきめ細かな指導を目指し、試行錯誤の段階であった。そこで本年度（平成17年度）より、「学習クラブ」を試験的に導入した。

「学習クラブ」では、高校の分野のみならず、中学校の学習範囲のプリントも作成可能である。生徒たちは、自分に合ったプリントと解答を自分自身で出力し、答え合わせをする。解からないところは常駐している教員に質問をするという形態をとった。

(1) 概要

「英語」と「数学」について、希望者に対して指導する。具体的には、一人ひとりの学習状況に応じた個別指導、または、グループ指導を行う。

(2) ねらい

- ア 学習につまずいている生徒に対して、小・中学校の学習にまで立ち返って学習を支援し、その克服を図ることによって、学習への自信と意欲を培う。
- イ 学校全体に、学習に向かう雰囲気醸成する。

(3) 「学力伸ばし隊」の考え方

- ア 生徒の自主的な学びを支援する。
- イ 小・中学校のつまずきにまで立ち返って、分かる喜びや自信を持たせる。
- ウ 生徒一人ひとりの実態に合った指導を行う。
- エ 各教員が、それぞれのやりやすい形で関与する。
- オ 大会議室の学習室としての開放の延長上にある。

(4) 実施時間

昼休み、火・金曜日の放課後

(5) 会場

大会議室、進路指導室前

(6) 指導内容・方法

「基礎・基本コース」、「学力アップコース」の2チームに分けて実施する。

ア 基礎・基本コース

「基礎力チェックテスト」を実施し、苦手な箇所を確認して、段階を追ってプリント学習をする。学習相談的な指導も加える。

イ 学力アップコース

授業に沿ったプリントだけでなく、進学用のプリントも用意し、やや難しい内容にも取り組めるようにする。

(7) スキルアップシートの記入

その日の学習終了後、各自でスキルアップシート(図1参照)を記入する。

このシートには「日付」、「学習内容」、「分かったこと・学習しての感想」を記入する欄があり、それを見ることで生徒の学習の理解度を把握することができる。

また、教員がアドバイスを記入することでコミュニケーションを図りながら、生徒の学習意欲と効率の向上に役立っている。

No. _____	
学力伸ばし隊「スキルアップシート」	
回目	月 日 ()
【学習内容】	
【分かったこと・学習しての感想】	
【アドバイス】	

図1 . スキルアップシート

3 . まとめ

「小学校の頃から解からなかったことが解かるようになって、とても嬉しい。」これは学力伸ばし隊に参加した生徒の感想である。現在、学力伸ばし隊では、英語と数学の指導を行っているが、来年度より国語も指導科目に加わることが決定した。これにより、さらに多くの生徒のつまずきの解消が可能となる。また、「学習クラブ」は学力伸ばし隊だけでなく、授業や定期考査前の学習指導に取り入れるなど、様々な場面で活用し、多くの生徒にその有効性を体験させ、指導していきたいと考えている。

今後も幸手高校では、全ての教員が生徒と真正面から向き合うことで、生徒のつまずきを解消し、学力を伸ばす取組を続けていく。

— 昨年の暮れより、学習クラブが全国さまざまな場でたくさんの先生方に実践いただくようになりました。

私どもは、先生と子ども達が活動するごく自然な学習場面での活用を想定して、教師とのかかわりの中で問題演習したことを定着させるということに重点を置いて製作しており、演習という部分で「学校の授業」と「家庭での学習」を結びつけるものでありたいと思っております。

子ども達の学習活動の1コマ、つまり学校の授業で理解したことの確認や疑問の解決に役立てたり、さらに定着させるために問題プリントを家で取り組んだりすることで、高い意欲・さらなる興味を持って次の授業に臨むという良いサイクルを生み出したいと思っております。

学校ですばらしい学習の営みができたとしても、それを深めることができなければいけないと思うからです。

これからも先生方には良き発信者となっていただき、その実際の子どもの声を伝えていくことで、全国の学校の活性化にもつながればと願っております。

一人でも多くの子ども達に、

“わかる喜び”を味わってもらいたい...

“学ぶ意欲”をもっともっと高めていってもらいたい...

そんな思いを大切にし、今後も取り組んで参ります。

数学で使わせていただきました本当にありがとうございました。いま
した。レベル別に解くことができたので、とてもやる気が出ま
した。解説もとても分かりやすか、たです。これで、私は
授業で使うのは最後になります。でも、許可が出たので、
学校の帰りに、利用させていただきたいと思っています。

私の、この教材の好きな所は、もちろんレベル別になっていること
と、単現をこまめに分けて解説を聞ける所です。これからも、
定期テスト、受験勉強に役立てさせていただこうと思います。
素敵なソフトも、どうもありがとうございました。



このソフトのおかげで今まで基本問題が雑で間違っ
ていたのが慎重にやるようになってしっかり解けるよう
になり定期テストでも点が取れるようになりました。
これからは慎重にやろうと思いました。ありがとうございました。

自分の弱点の場所のプリントがすぐに出てくるので、
早期の弱点こくふくができてよかったです。
これをバネにして、受験勉強をがんばろうと思います。

とても便利で、使いやすいソフトだったと思いました。
問題も、簡単なものから難しい応用問題までそろっていたので、
誰が使用しても役立つと思いました、本当にありがとうございました。

自分に合った問題がたくさんとり出して、やってみると自分の実力がどのくらいあったか
りとしてもよかった (学習クラブの感想)

プリントを出して問題を解き、わからなかつたら、解説を聞いた。簡単な問題にしたりして利用していました。学校の授業ではやらないようなところまで、問題があり、新しい事を学ぶ事もできました。解説は、分かりやすい、わからなかつたら、何度も聞けるし、戻したりして聞いて、理解できました。プリントも最初は選ぶ方がわからなかつたりはけど、だんだんコツをつかんで役に立ちました。

プリント問題もくり返すことにより、実力がついたような気がします。どの教科の問題もわかりやすくてよい授業になりました。問題が難しかったとき、解説を見て理解がとて深まりました。

このシステムは、自分の苦手なところやわからないところが
できるので、とても便利です。

さらに、わからないところは説明も聞けて、すぐ役に
立ちました。

そのおかげで、苦手がなくなりました。



株式
会社

日本コスモトピア

〒532-0011 大阪市淀川区西中島 4-9-28 TAIYO センタービル

TEL : 06-6390-2100 / FAX : 06-6390-3678

本書の一部、または全てを無断で転載することは、固くお断りします。
Copyright©2006 Cosmotopia Japan Inc.